

※ この資料は、当時の考え方に基づく研修の結果のため、マニュアルには反映されていない部分もございます。

職員向け防災研修（新型コロナウイルス感染症対策）実施結果報告書

1 背景

6月24日、幸区東小倉小学校において、策定中のマニュアルに基づいて初めて訓練を実施した。内容は、受付の設営から、受付での避難者の症状に応じた避難者の振り分けなど、担当する職員がマニュアルが示す理解力を検証する場として位置付けて取組んだもので、結果として担当する職員の判断力により差異が生じたことから、早急の研修の必要性を認識しました。

また、令和元年東日本台風クラスでは、本庁からも支援要員として避難所に派遣されることから、本庁からの避難所運営支援要員に対しては、危機管理室が、区の避難所運用要員については、区役所が担任して研修を急ぎょ計画して実施しました。

2 研修場所

第4庁舎 第2ホール

3 実施日時、参加者数

月 日	時 間	参加者数	日別参加数
7月20日（月）	13:00~14:00	32名	125名
	14:30~15:30	40名	
	16:00~17:00	51名	
7月21日（火）	13:00~14:00	17名	89名
	14:30~15:30	38名	
	16:00~17:00	34名	
8月3日（月）	9:00~10:00	30名	105名
	10:30~11:30	22名	
	14:30~15:30	24名	
	16:00~17:00	29名	
8月4日（火）	9:00~10:00	29名	54名
	10:30~11:30	25名	
8月6日（木）	9:00~10:00	20名	98名
	10:30~11:30	20名	
	14:30~15:30	23名	
	16:00~17:00	35名	
合 計			471名

4 研修内容

(1) 講義による研修（15分）

本研修の目的、新型コロナウイルス感染症対策マニュアルの概要

(2) ワークショップによる研修（45分）

グループに分かれ、学校の見取り図を基に、避難所で想定される感染症対策（受付や案内、動線の確保等）の検討、振り返り

別添 「研修資料」

「ワークショップ資料」

※新型コロナウイルス感染症対策として、研修時間を1コマ1時間以内の短時間の実施として、ワークショップ形式で各班の考え方を発表することで、様々な対応を共有することで、従来の個別アンケートは実施しないものとした。

5 「ワークショップ」日別研修結果

別紙「日別研修結果等」



日別研修結果等(令和2年 7月20日分)

【新型コロナを踏まえた避難所開設ワークショップ】

●ワーク結果の傾向

- ・受付を2箇所に分けて対応するグループが何組もあった。
- ・エレベータを利用して、要配慮者に対応するグループと2階に専用スペースを設定し、階段で対応するグループに分かれた。
- ・はじめから全てのスペースを決めるのではなく、症状別避難者の人数によって、部屋数を決める方法をとるところもあった。
- ・家庭科室や音楽室を家族スペースとして設定する班があった。
- ・トイレと水道の場所を中心に専用スペースを振り分けている班が多かった。

●参加者から要望・意見

- ・研修からのワーキングだったので、より理解が深まった。
- ・現在の避難所運営の難しさがよく分かった。
- ・研修受講して、災害時に運営出来るのか不安になった。
- ・実際の避難所を想像することが出来て、有意義だった。
- ・各班の意見を聞いたのが良かった。

【危機管理室 担当者 感想】

初日だったため、どのような反応になるのか不安がある中での実施でした。しかし、研修をはじめてみると、参加職員全員が真剣に避難所について話し合い、課題を見つけ、どのように対応していくかを考えていました。

ワーキングの各班の発表内容は、参考になる意見が多くあり、その中でも、各教室の収容人数を仮定して、避難所に来る各症状別避難者の割合を想定し、部屋数を決めている班があり、非常に印象的でした。

このように職員に考えさせる研修を多く行うのは、研修効果が大きいのではないかと感じました。

日別研修結果等(令和2年 7月21日分)

【新型コロナを踏まえた避難所開設ワークショップ】

●ワーク結果の傾向

- ・受付や建物への入り口を分離するか否かについて、全体の6割が受付は分離せず、約4割が受付を分離していた。また、2.5割の班が屋外に受付を設けるとしていた。
- ・約半数がエレベーターの利用に着目しており、概ね要配慮者の利用を想定していた。
- ・ほぼすべての班でDゾーンの分離については配慮が感じられたが、Cゾーンの取り扱いについては、意見が混在しており、A・Bと同一として扱うか、Dと同一と扱うか、第3の分類として分離するか等様々な意見が見られた。

●参加者から要望・意見

- ・要配慮者・体調不良者等について、どのような人が当てはまるのか、イメージが持ちづらかった。
- ・A～Dのそれぞれの区分けについて、どれくらいの人数を想定すべきか迷った。
- ・Cゾーンについて、Dゾーンと同様に、A・Bから分離すべきなのか、またCとDの動線などを一緒にしてよいのか迷った。
- ・本番でも同じくらいの時間で判断していく必要があると聞き、訓練になったと思う反面、不安感も残った。

【危機管理室 担当者 感想】

- ・限られた時間の中で参加者は意欲的に研修に取り組み、よい訓練になった。
- ・台風接近下の想定であるが、2.5割の班が屋外への受付設置を検討する等、短時間ゆえの前提条件の確認漏れ等に課題が見受けられた。
- ・B・C・D各ゾーンに振り分けられる対象者について、具体的なイメージを持てる人、持てない人にばらつきが見られ、本番でも同様の可能性が考えられることから、各ゾーンへの振り分け対象者をより明確にする必要があると考えられる。
- ・動線や利用するトイレの分離等、より明確に示す必要もあると考えられた。

日別研修結果等(令和2年 8月 3日分)

【新型コロナを踏まえた避難所開設ワークショップ】

●ワーク結果の傾向

- ・風水害なので1階を使わないということは理解されていた。
- ・エレベーターを要介護者に利用してもらう点はみんな共通して検討していた。
- ・廊下をパーテーションで区切って動線をふさぐような案が出ていた。
- ・水道やトイレについても共用しないように工夫されていた。
- ・受付後に、健康な人と発熱者の動線を分けた。
- ・入口は、運営管理上、1つにした。
- ・明らかに、体調の悪い方は、別の入口を使用することにした。
- ・CゾーンとDゾーンの間に緩衝区域としてなにも使用しない教室を明記していた。
- ・ゾーン別に使用するトイレを決めてから、ゾーン分けをした。

●参加者から要望・意見

- ・図面ではなく、実際の現場で検討できるとイメージがわきやすい。
- ・図面の配置まではできたが、実際は、生徒の机や椅子等があるなかでどのように避難者をケアしていくのか考えていきたい。
- ・1時間のコンパクトな研修であったが理解が進んだ。
- ・実際の避難所運営で、スムーズにできるのか心配。
- ・健康状態によって避難スペースを分けることで、感染リスクが減るので、運営側としても安心できる。
- ・しっかりと誘導できるよう、校内で使用する表示がたくさん必要と感じた。
- ・発表後に他の班のワーク資料をお互い確認する機会があると、どのような思考プロセスがあったのかを参考にできて良いと思う。
- ・机上では時間経過が実際と違うため、各作業の工数などを参考に纏めてもらえると、よりイメージがわきやすい。

【危機管理室 担当者 感想】

- ・ほとんどの人が実際に避難所運営に関わったことがない中で、ワーク形式による設営検討を行ったことで、実践的な理解が進んだ。
- ・ゾーン分けするという新しいオペレーションについて周知ができた。
- ・CゾーンとDゾーンが明確に区分けできていないケースがあった。
- ・講義を受けてからのワークショップのため、参加者がしっかりとゾーン分けについて、理解していた。
- ・多くの班で、しっかり議論をしながら受付位置・ゾーン分けができていた。
- ・同一の条件と統一の校舎図面を使用してのワークショップであったが、班別の発表を見ても、作成したレイアウト案が各班によって異なった結果であった。

日別研修結果等(令和2年 8月4日分)

【新型コロナを踏まえた避難所開設ワークショップ】

●ワーク結果の傾向

- ・健常者、要配慮者、発熱・体調不良者、濃厚接触者の受付について、「健常者及び要配慮者」、「発熱・体調不良者及び濃厚接触者」で分けるか、発熱・体調不良者とそれ以外で受付を設けか、どちらがよいか判断に迷った。また、入口についても、全く別の玄関とするのか、同一の玄関で、受付を離す程度でよいのかも判断に迷った。
- ・できる限り、コロナ等が疑われる方々と健常者の避難する階層を分けるよう心がけたが、避難者数によっては、同じ階に避難しなければならないこともあるため、廊下にパーテーションを設置し、利用トイレを分ける等の動線を工夫して、接触をできるかぎり減らすようにした。
- ・要配慮者の方がいることから、学校のエレベーターを利用し、エレベーターに近い教室へ誘導・案内するよう工夫した。
- ・乳幼児やちいさな子どもが避難した場合は、泣き声等の問題があるので、防音設備が整っている音楽室へ案内する等、避難者の家族構成や教室の設備、配置状況等を考慮して、避難者の割り当てを考えた。
- ・発熱者と濃厚接触者、健常者と要介護者で分割した。2つ昇降口があるので受付を分割したが、どちらの受付に行けばいいかを案内しなくてはいけないか？運営の手が足りないかもしれない。
- ・濃厚接触者や発熱者を上階へ避難させる際に、階段の手摺等を共用する場合がある。そのため、AB と CD で左右に分けた。発熱者が EV を使用したい場合もあるだろうが、要介助の方が使用できなくなるので悩ましかった。要介助の濃厚接触者はどうするか。検討事項は多い。

●参加者から要望・意見

- ・動線が交差しない部屋割りを実際にマップに落としてみると、各人で大分異なった配置と経路が出来上がりました。避難所設営時に、初対面同士で時間も無い中まとめるのは難しいと思われます。実際の担当避難所で同様の研修を行うのが望ましいのでは？
- ・こういった研修が無ければ、マニュアルを読む機会も少なかつたと思われる。職員にコロナ対策の理解を深めてもらうためにも、避難所運営要員以外にも参加を促してはどうか。
- ・地震等で避難所を開設し、体育館を使用する場合はどうなるのか。
- ・発熱者は体温計で判断しても、濃厚接触者の判断が自己申告となるのか。
- ・市民の協力者に感染リスクを負ってまで運営対応させても良いのか。
- ・立体で考えると、レイアウトが難しい。限られた時間で設営しなければいけないことがよくわかったので、きちんと準備しておきたい。
- ・そもそも災害対応のことについてよくわかっていないので、このような研修の機会は大切。階層別研修や、新規採用研修など、機会をとらえた研修の実施が必要と思う。
- ・浸水リスクも考えると、あらかじめ避難所スペースを十分確保するようにお願いしたい。
- ・職員が避難所運営をしっかり対応しなければいけないのは分かるが、備蓄物資の確保などを含め、危機管理側での準備をよろしくお願いしたい。
- ・研修の内容だけでは、現場で何をすべきなのか正直分かりにくいところがある。現場に合わせて考える部分も必要であるが、共通事項については、マニュアルなどを整えていただきたい。

【危機管理室 担当者 感想】

- ・正解がない中で、コロナウイルスへの感染リスクをいかに低減できるか各班で知恵を出し合っていて、教室の割り当てを検討されていた。
- ・研修参加者は、限られた時間の中で、ゾーン分けを工夫して行っていた。
- ・一方で、やはりレイアウト検討には一定の時間を要することが分かり、引き続き職員研修や、必要に応じての訓練参加を継続的に行い、対応能力を高める必要がある。

日別研修結果等(令和2年 8月 6日分)

【新型コロナを踏まえた避難所開設ワークショップ】

●ワーク結果の傾向

- ・どの班も動線を意識して検討していたが、トイレや要配慮者への対応を踏まえた検討には乏しかった。
- ・カテゴリ別の人数が定かではないため、部屋割りには苦慮していた。
- ・ペットをどこに置いてもらうかを検討している班は、ほぼいなかった。

●参加者から要望・意見

- ・A～Dという4つのカテゴリに分けるが、実際に市民を目の前にそれができるのか疑問
- ・浸水エリア内の避難所では、受付は1階でいいのか？仮に上階としても、移動時のカテゴリ分けはいいのか？
- ・ペットは昇降口ということだが、受付と分ける必要があるのではないか？
- ・家族内でカテゴリを分けざるを得ない状況があった場合、指示に従ってくれるか、また、要配慮者の世話はどうするのか？
- ・あとで合流する家族がいた場合、同じカテゴリでも避難場所(教室)が違うなどの苦情が出る場合も考えられる。その場合の対応方法は？
- ・それぞれのカテゴリの人数が不明な中で、動線をわけることの難しさを感じた
- ・一度カテゴリに分けられた後、容態が急変した場合の対応は難しい
- ・避難所運営会議に積極的に参加し、状況など事前に把握する必要性を感じた。

【危機管理室 担当者 感想】

- ・今回の研修により、如何に避難所運営が難しいか理解につながったと思います。
- ・今回はメンバーが職員だけだったので、話し合いには大きな問題もなかったかと思いますが、実際の避難所では、職員だけでなく、自主防災組織や町内会などの市民の方々と調整する必要があり、更には様々な避難者とコロナ対策対応もあることから、日頃から避難所運営要員の方々と顔が見える関係づくりの重要性を再認識しました。

職員向け防災研修 (新型コロナウイルス感染症対策)

総務企画局危機管理室

はじめに

新型コロナウイルス感染症は、いまだ全容がはっきりしておらず、避難所における感染症対策としての前例がありません。

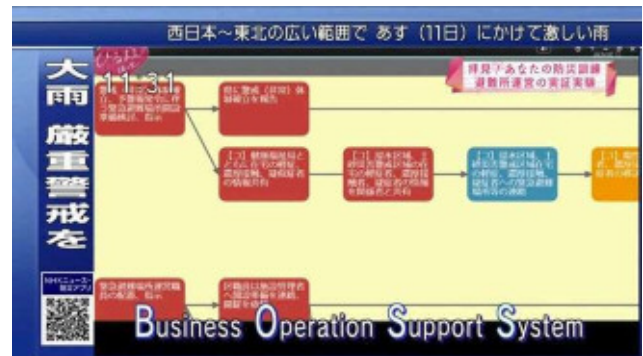
しかし、このような状況下でも、災害が発生したら避難所を開設し、運営していかなければなりません。

マニュアル作成と並行して、訓練を実施しました

東大の研究室が開発した「災害対応工程管理支援システム」通称「BOSSシステム」。

そのシステムを使用し、コロナ禍における避難所の受付から誘導までの対応訓練を実施しました。

その中ではマニュアルを使用したチームと分けて訓練を行いました。



訓練の様子



BOSSシステム使用チーム



マニュアル使用チーム



ピフスの配置が異なる

研修の目的

今回の訓練を通してみえたこと



- ・感染症のリスクもあるなかで、避難所運営も複雑化
- ・マニュアルやシステムがあるから避難所運営が網羅できるわけではない



研修や訓練を通して避難所運営で起こりうることについて、あらかじめイメージを持つことによって、市民(避難者)に対する説明や現場での感染症への対処を的確に行っていただく

災害時の避難所運営に関する
新型コロナウイルス感染症対策マニュアル
ver.0.1について

感染対策の基本

- ① 『3つの密』の防止
- ② マスクの着用
- ③ 手指の消毒

避難所で行う感染対策

- 1 避難者、避難所運営に係る職員等へのマスクの着用、手指の消毒の徹底
- 2 避難者に対して、受付時の健康状態に基づく専用スペースへの振り分け（案内）
- 3 避難者の症状に応じた専用スペースと複数動線（通路、階段、トイレ）の確保
- 4 避難スペースでの十分な換気及び間隔（ソーシャルディスタンス）の確保
- 5 発熱や体調不良等の症状がある避難者等への適切な対応
- 6 高頻度接触部位の（ドアノブ、手すりなど）の適度な消毒と避難所閉鎖時の適切な消毒
- 7 職員等が活動する際に、ゾーンに応じた感染防護衣の着装

4つのゾーン分け

感染リスクを軽減するために、避難スペースを4つのゾーンに分けます。

Aゾーン（健常者）：体調良好者

Bゾーン（要配慮者）：介護や介助が必要である
在宅酸素・人工透析中である
乳幼児（妊娠中も含む）がいる

Cゾーン（発熱・体調不良者）

：発熱、咳、下痢、嘔吐、発疹などの症状があるなど、体調不良である

Dゾーン（濃厚接触者） ※地域の状況により設定します

- ：①健康観察の対象になっている
- ②過去14日以内に、新型コロナウイルス感染症の流行地域に行ったことがある
- ③過去14日以内に、海外から帰国した
災害の状況に応じて、避難スペースを確保します。

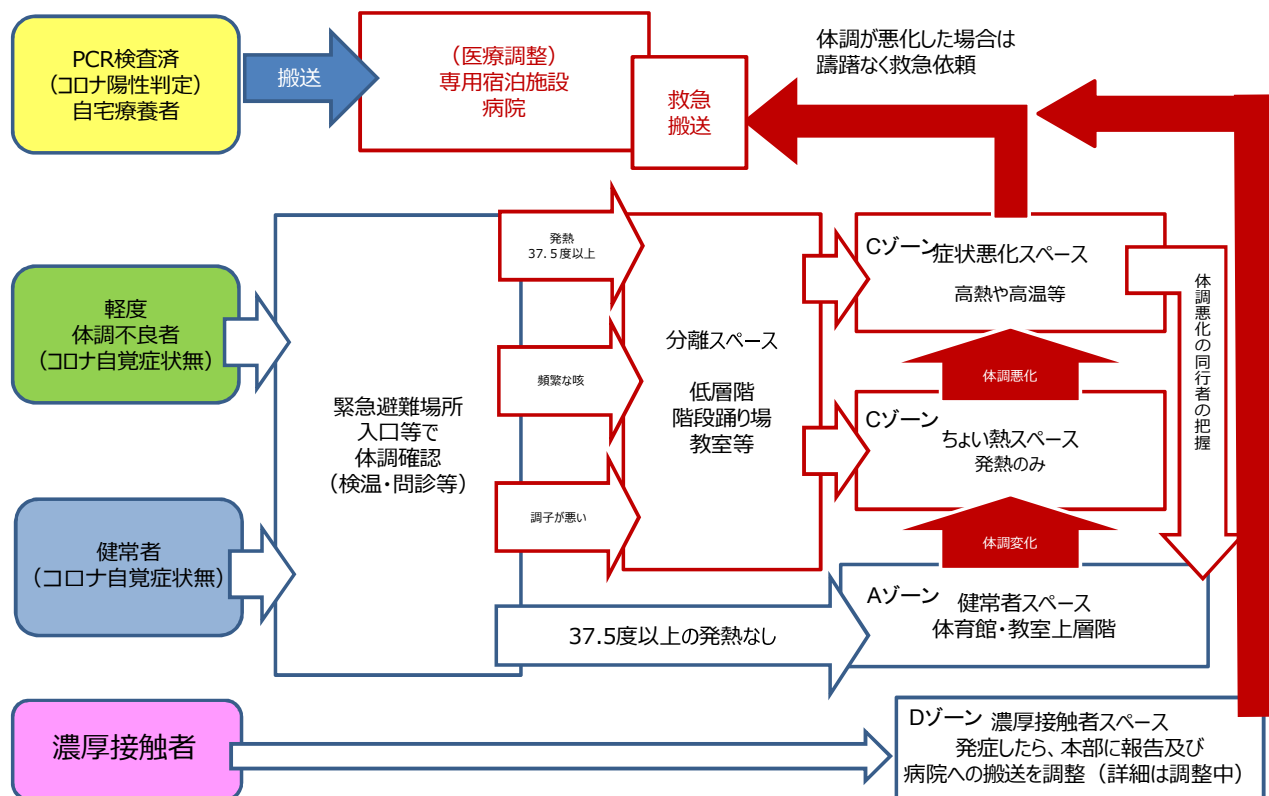
受付対応

受付対応は区職員または本庁職員で行うこととします。

※学校等の施設管理者や地域の方は従事しないことを原則とします。

- 1 避難者を受け付ける際には、避難者に対して、マスクの着用や手指の消毒を徹底します。
- 2 受付場所（体育館の入り口や昇降口等）では可能な限り換気やソーシャルディスタンスをとります。
- 3 避難者がきたら、それぞれに対し、非接触式体温計を使用し検温を実施し、避難時の健康チェックリストに基づき、避難者自らの「指差し」で健康状態を確認します。
- 4 C、Dゾーンを選択した方については、市職員が受付カードに体温を記載して下さい。
- 5 避難者から、健康状態の申告に基づき、各専用スペースへ振り分けて誘導します。その際、市職員の言動など、避難者に対する人権侵害等には十分配慮して下さい。

新型コロナウイルス感染症への対応イメージ



避難所対応の基礎知識①

①医療機関（医師）からPCR検査が必要との診断を受けて実施

⇒結果が出るまで、公立検査所は1～2日、民間は数日かかる

②陽性判定が出た場合は、対象者の濃厚接触（者）を特定し、連絡を行う

⇒濃厚接触者となるケースは、同居の家族、職場の近接者、飲食等を共にした友人など

③現時点の運用では、ハザード内に居住する自宅療養者は、専用宿泊施設等に別搬送（予定）

⇒家族等の濃厚接触者も、別の専用（避難）場所等が案内できないか検討中

⇒ハザード対象者には、事前に区役所（危機管理、衛生課）から避難の可能性を説明

④無症状や無自覚な陽性者の場合もあるが、受付時には**検温と健康チェックリストによる自己申告**で一定の振り分けを実施

⇒体温が平熱で咳もなく、自覚的も『健康』である者は、健常者スペースに案内となる

⇒単なる風邪でもコロナと同様な症状となるので、本人や周辺者も困惑する



避難者・職員全員が基本的な予防対策を行うことが大切

避難所対応の基礎知識②

⑤受付での振り分けだけでなく、その後の体調変化にも注意が必要
⇒体調不良・濃厚接触者スペースは、一定時間ごと経過観察を行う
⇒体調が悪くなり、緊急度が高い場合は、『119番』をするとともに区本部へ連絡する。

⑥空気感染ではなく、飛沫感染が基本となるため、防護服等の適切な装備が必要
⇒受付時は、手袋やマスク着用程度（過度の構えに映らない配慮）
⇒専用スペース（C・Dゾーン）へは、サージカルガウン（ポンチョ）やフェイスシールド

⑦症状の変化などスペースの再分離の可能性がある
⇒分離できない場合などは、出来るだけ距離を取るためテント等（備蓄予定）で隔離性を高める
⇒混在する場合は、ドアノブや共有スペースの消毒、手洗い等の徹底への協力を要請

新型コロナを踏まえた 避難所開設ワークショップ

総務企画局 危機管理室

本日のレジューメ

- ① 目的
- ② やり方
- ③ ワークをはじめよう
- ④ 各班ごとの振り返り
- ⑤ 全体発表とまとめ

ワークショップの目的

- ・新型コロナウイルス流行下における避難所運営は、従来の対応に加え感染症対策が重要となり、特に避難者来場時の受付での振り分けがキーポイントと考えられる
- ・そのためには、まず多数の避難者（基本的には風水害の一時避難）を迅速に受け、適切な避難エリアに案内するためのレイアウトが重要となることから、今回のワークで感染症対策に配慮したレイアウトの基本的な考え方への理解を深めることを目的とする。

ワークのやり方

用意した学校の平面図面を避難所と見立てます。

受付の位置、避難スペースの割振りや動線など、避難者を受け入れるために必要なレイアウトを自由に記入してください。

レイアウトの設定、動線などで工夫した点やどうしてそうしたのかを、付箋に書いて貼ってください。終わったのち、班になり、その考えた点を話し合い、班で1枚の避難所レイアウトを作成して下さい。

場面設定

- ・令和2年9月×日、太平洋沖でスーパー台風が発生、本州に向かって猛烈な勢力のまま接近中、3日後に関東地方を直撃する可能性があることが気象庁から発表された。
- ・大規模の台風予報に、去年の東日本台風の経験からも多くの避難者が押し寄せることが予想される・・・

場面設定②

- ・避難所運営支援要員であるあなたは、避難所を運営するため担当する学校へと向かいます。
- ・学校に到着すると、一緒に運営をする職員と施設管理者が集まり、ミーティングを開始するところです。

場面設定③

- ・ミーティングでは、校舎のレイアウト図が示され、専用スペースの配置について検討が始まります。
- ・あなたも運営する一員として、自分の考えを基に避難所レイアウトを作成してください

【基本情報】

- ・避難者数 400人
収容基準(仮) 普通教室20人、特別教室30人
- ・使用可能スペース
(普通教室、多目的室、図書室、音楽室、図工室、家庭科室)

※避難所のある地域は洪水浸水想定区域のため、1階を避難スペースとして開放しないこととする

専用スペース

Aゾーン(健常者): 体調良好者

Bゾーン(要配慮者): 介護や介助が必要である
在宅酸素・人工透析中である
乳幼児(妊娠中も含む)がいる

Cゾーン(発熱・体調不良者):
発熱、咳、下痢、嘔吐、発疹などの症状があるなど、
体調不良である

Dゾーン(濃厚接触者)※地域の状況により設定します
: ①健康観察の対象になっている
②過去14日以内に、新型コロナウイルス感染症の流行地域に行ったことがある
③過去14日以内に、海外から帰国した

それでは、個人ワークを
行ってください。
(制限時間は10分)

- ・9分の時点でお知らせしますので、速やかにグループワークに移行する準備をしてください。
 - ・司会役や書記、発表者の役割分担を決めてください
- ⇒災害時のミッションとして、役割分担や協力体制を速やかに構築することも重要です

22

それでは、班ワークを
行ってください。

(制限時間は10分)

23

各班からの発表

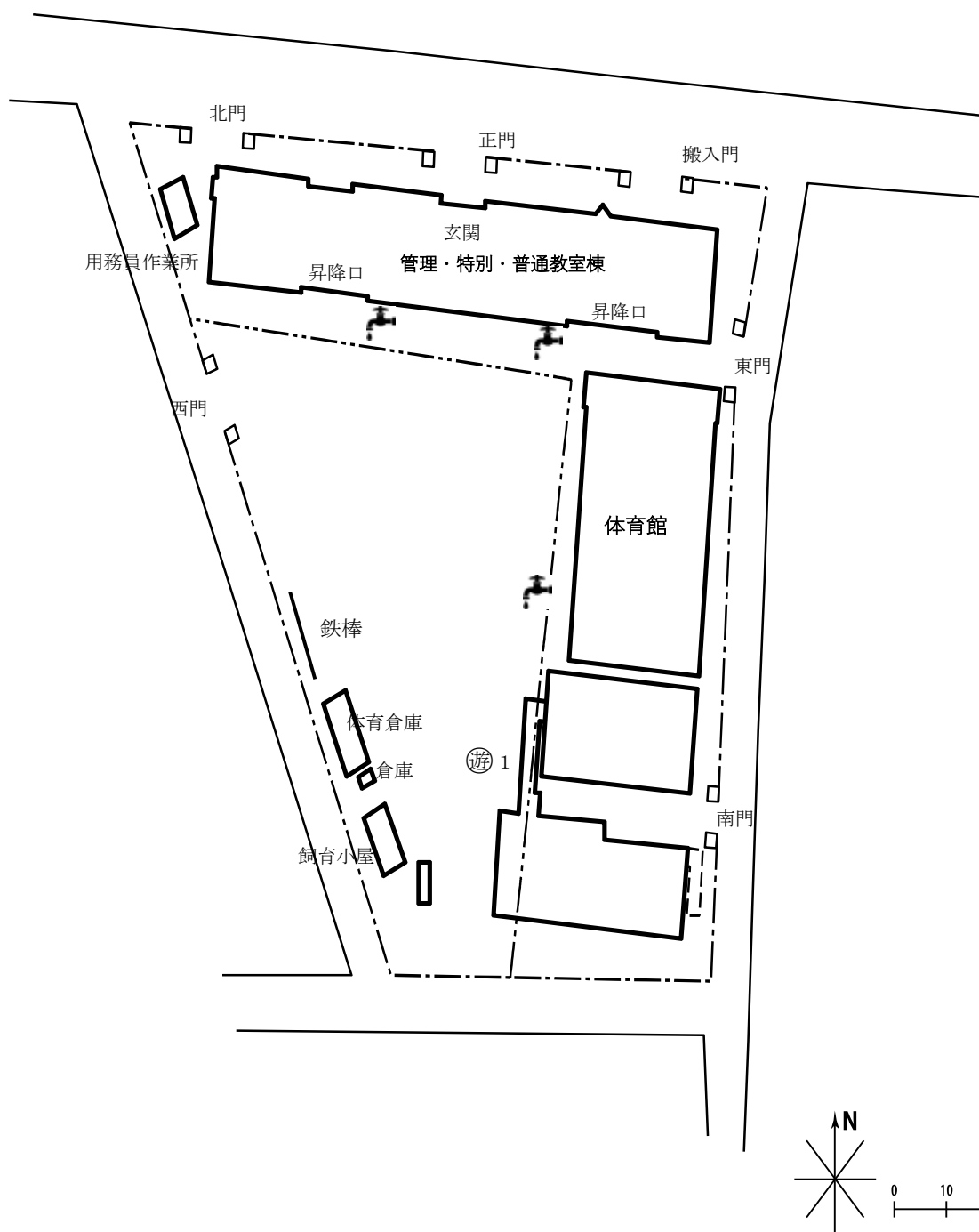
○ 対応に悩んだ事も含め、レイアウトの配慮部分をそれぞれ発表してください。

※一人2分程度でお願いします。

ワークのまとめ

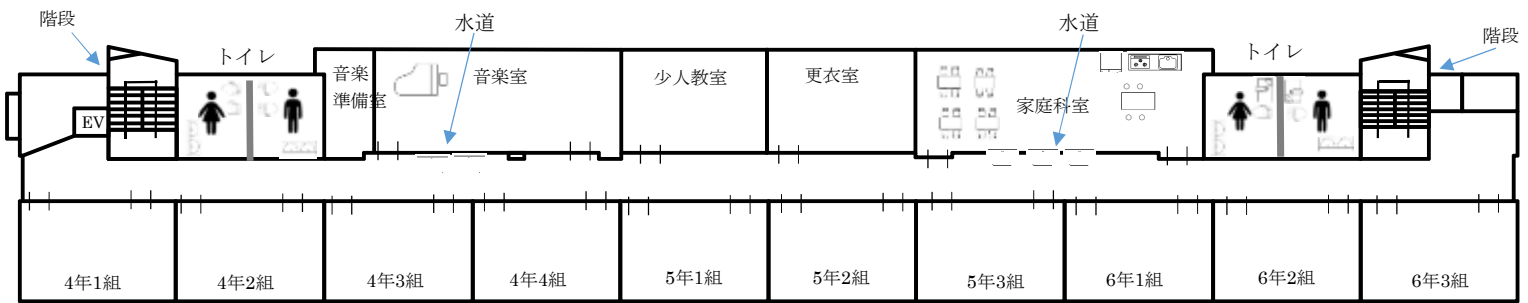
- ・ 本日は「研修」とはしていますが、答えを明確にお伝え出来ない点で、「ワーク」の体験を通じて、避難所運営面での配慮する難しさと重要性を共感いただける機会となりましたら幸いです。
- ・ 実際の避難所は、施設ごとに環境が大きく異なり、配慮すべき事項も多様になりますので、派遣依頼があった際には避難所毎のマニュアル（今後ライブラリに掲載予定）を入手して、事前に頭の体操をしておくことも、現場での対応力に繋がります。

施設配置図

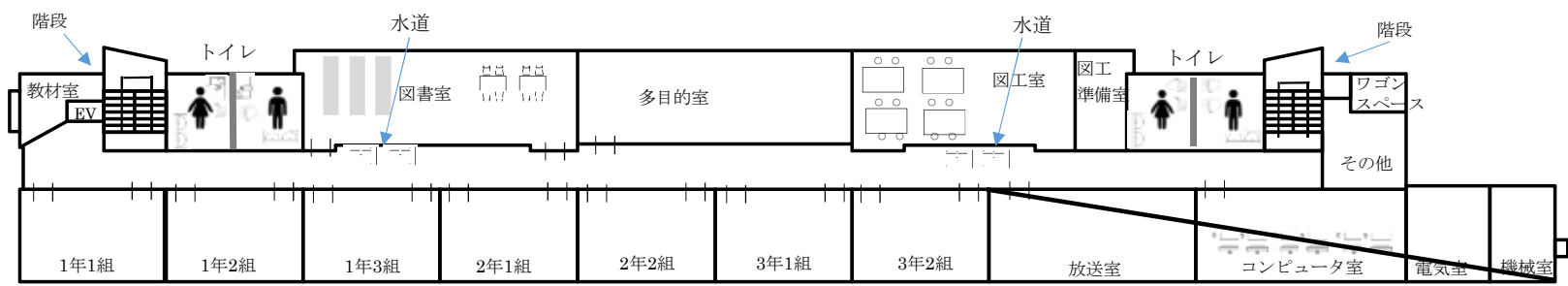


学校平面図面

3階



2階



1階

